



2009年3月期第1四半期 業績概要

2008年8月1日

アンリツ株式会社
社長 戸田 博道

東証第1部:6754
(<http://www.anritsu.co.jp/j/ir>)

注 記

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的
事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を
含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関
する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能
性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、
さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知お
きください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、
米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向
や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが
引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなど
です。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、
法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、
将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

目次

- 当社の事業セグメントの呼称と事業内容
- サマリー
- 2009年3月期第1四半期の業績の概要
- 2009年3月期中間期、通期見通し
- 今後の取り組み

当社の事業セグメントの呼称と事業内容

1

セグメント	サブセグメント	事業内容	担当事業部門の主な所在国
計測器	NGNおよびインフラ関連分野	光・デジタル・IP通信機器の開発・製造用テスト、有線ネットワークおよび無線インフラ敷設・保守用テスト、サービスアシュアランスなど	日本・米国・デンマーク・フランス・イタリア
	携帯端末分野	携帯電話端末開発・製造・保守用テスト	日本・英国
	汎用分野	無線設備、電子部品等の開発・製造用汎用テストなど	米国・日本・英国
情報通信		映像配信機器、通信機器、IPスイッチとその応用システムなど	日本
産業機械		食品・薬品・化粧品用重量選別機、異物検出機など	日本
その他		精密計測、光デバイスなど	日本

サマリー(1)



1. 第1四半期業績(連結)サマリー

(単位:億円 四捨五入)

	前第1四半期 (4-6月)実績	当第1四半期 (4-6月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
受注高	248	217	△ 31	△12%
売上高	205	198	△ 7	△4%
営業利益	△ 9	△ 9	0	-
経常利益	△ 12	△ 8	4	-
税引前当期純利益	△ 12	△ 21	△ 9	-
当期純利益	△ 19	△ 23	△ 4	-
フリーキャッシュフロー	△ 1	24	25	-

(注1) 棚卸資産の評価方法として今期より低価法を適用します。その影響額は、

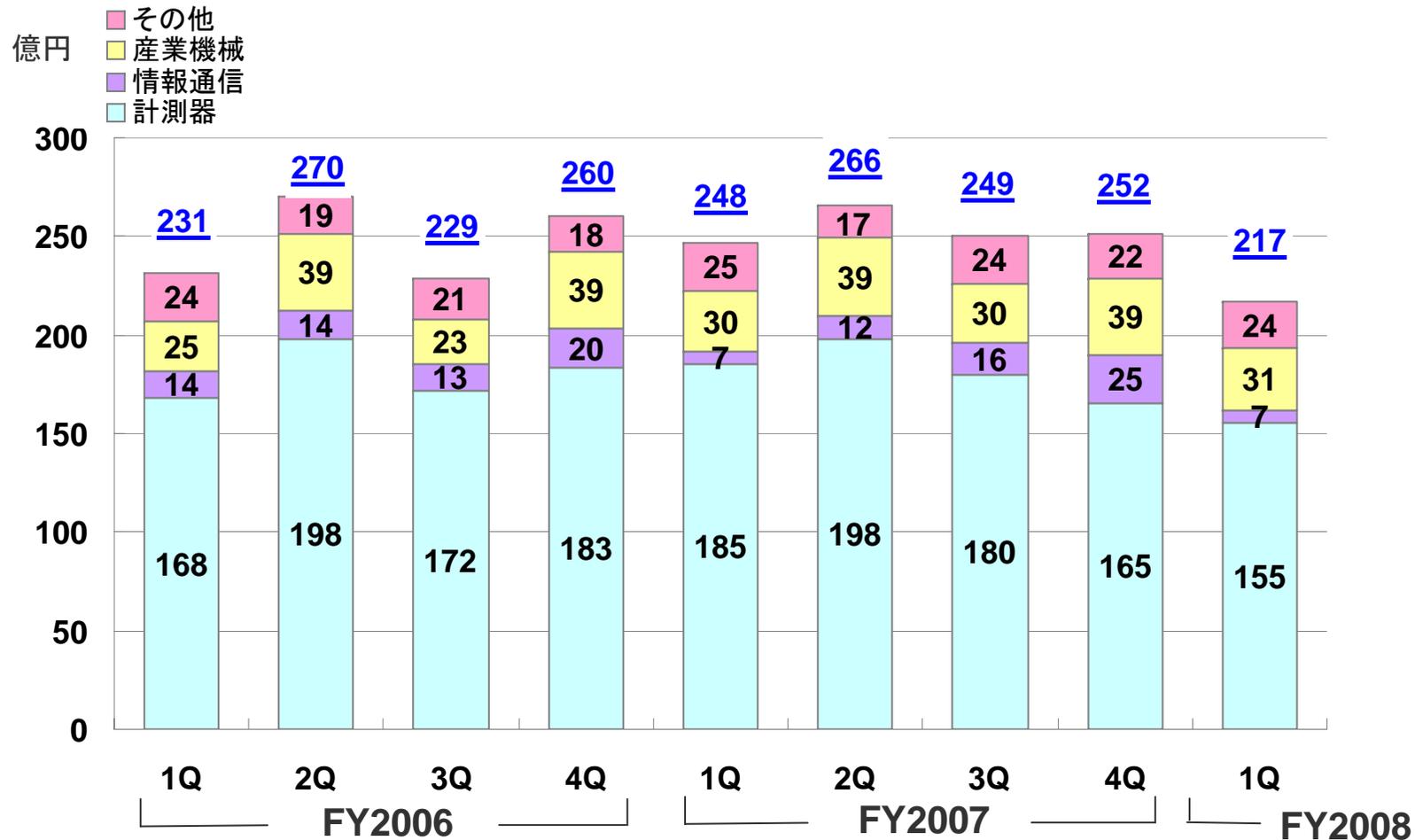
- ① 棚卸資産評価損の営業外費用から営業費用への変更が2億円
- ② 期首に過去分として計上した特別損失が14億円

(注2) 値はそれぞれの欄で四捨五入

2. 営業概況

計測器	アジアなどで3G携帯端末製造用計測器が堅調 米国などで無線インフラ用ハンドヘルド製品が堅調 日本は携帯端末関連など総じて低調 デジタル・IPネットワーク用計測器、汎用計測器は競争激化
情報通信	前年同期並みに推移
産業機械	海外の重量選別機、X線異物検出機が好調
その他	精密計測事業を4月1日付けで分社、アンリツプレシジョン(株)にて事業展開

事業別受注推移(連結)



(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

事業別売上高・営業利益(連結)



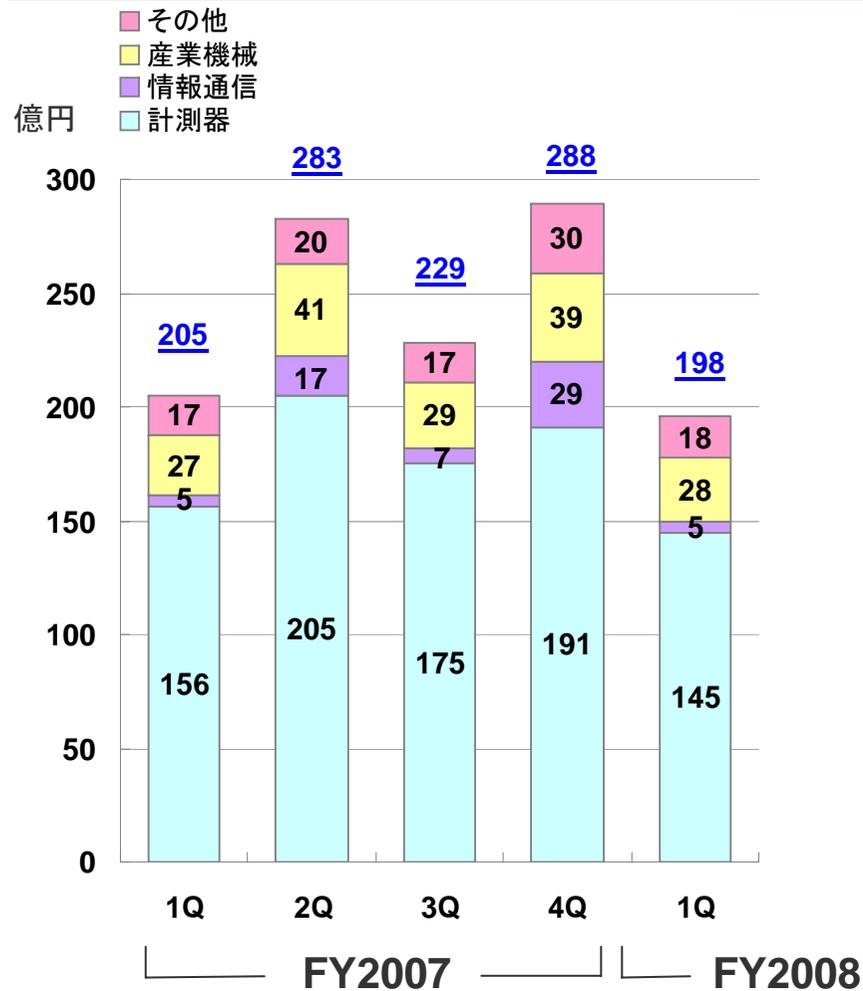
(単位:億円 四捨五入)

		前第1四半期 (4-6月)実績	当第1四半期 (4-6月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
計測器	売上高	156	145	△ 11	△7%
	営業利益	△ 7	△ 8	△ 1	-
情報通信	売上高	5	5	0	-
	営業利益	△ 2	△ 3	△ 1	-
産業機械	売上高	27	28	1	7%
	営業利益	0	0	0	-
その他	売上高	17	18	1	6%
	営業利益	0	2	2	-

(注1) 棚卸資産評価損の営業利益への影響額は、主に計測器に2億円

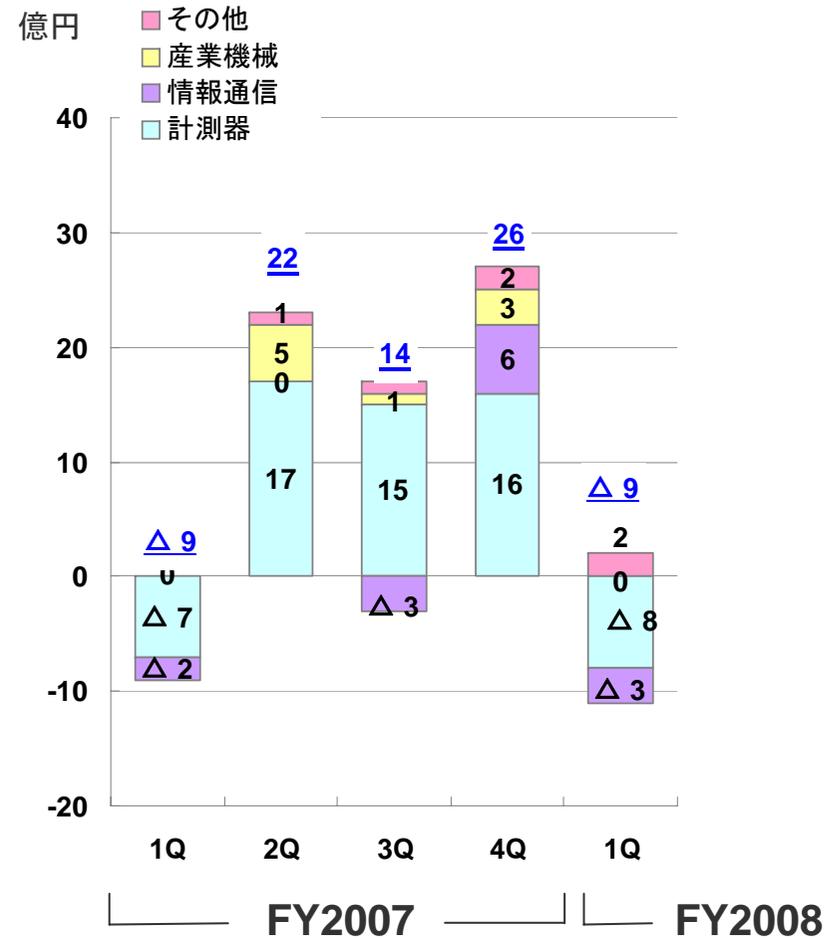
(注2) 値はそれぞれの欄で四捨五入

事業別売上高・営業損益推移(連結)



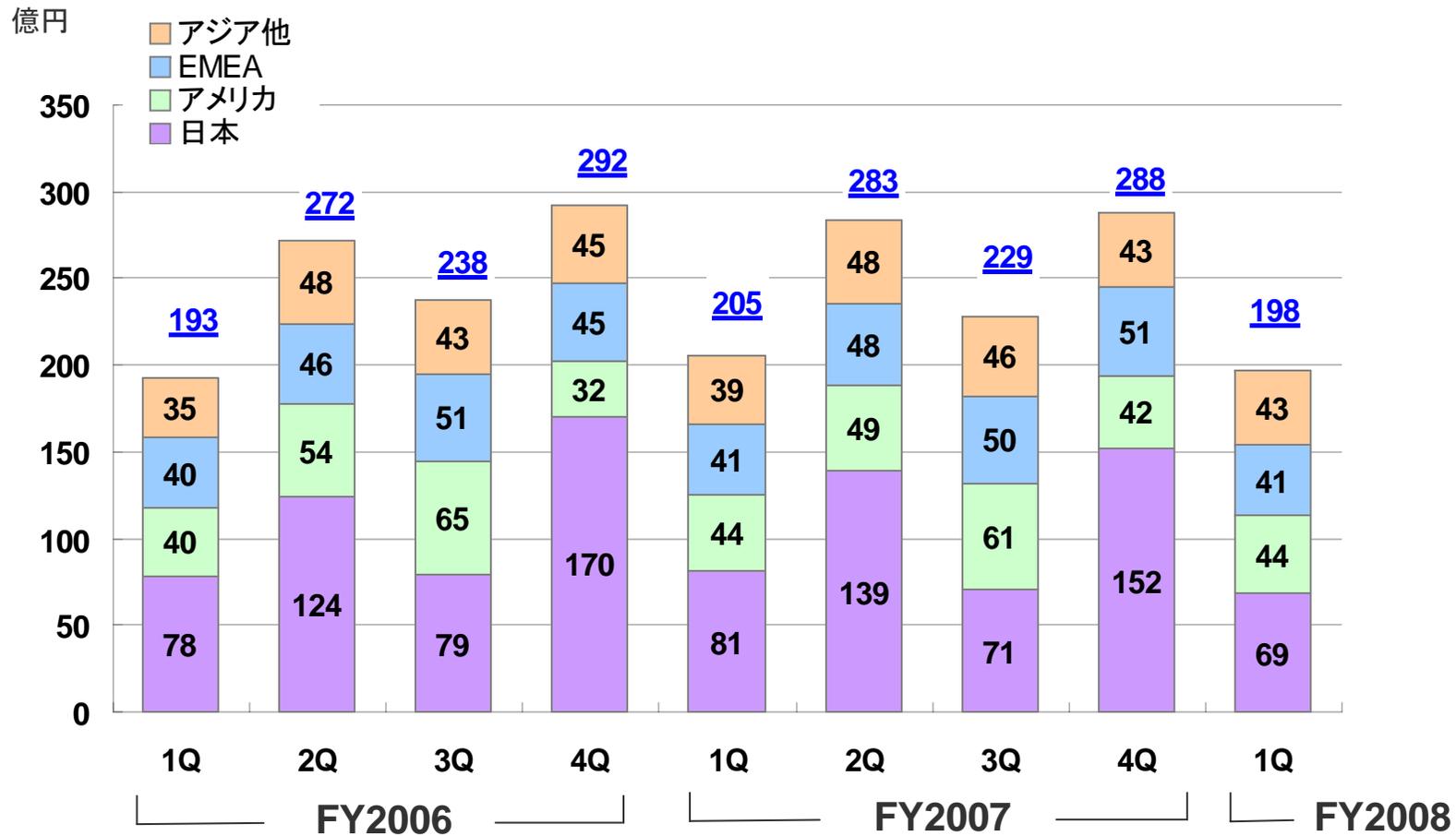
連結売上高

(注)値はそれぞれの欄で四捨五入



連結営業利益

地域別売上高推移(連結)



(注)値はそれぞれの欄で四捨五入

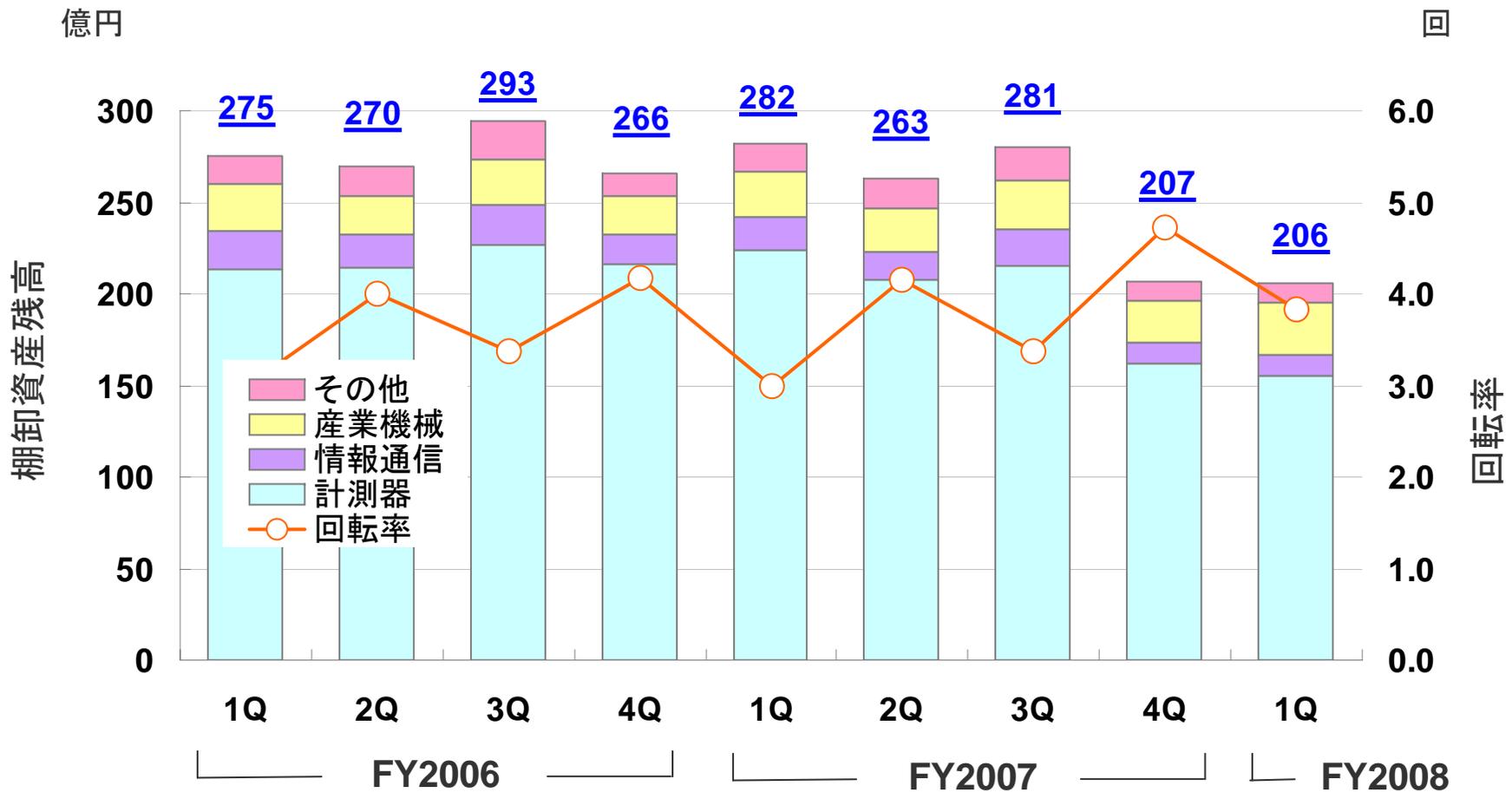
営業外・特別損益概要(連結)



単位:百万円 四捨五入

		前第1四半期 (4-6月)実績	当第1四半期 (4-6月)実績
営業利益		△ 939	△ 875
	金融収支	△ 130	△ 110
	棚卸資産廃却損・評価損	△ 303	△ 1
	為替差損益	157	170
	その他	64	38
営業外損益計		△ 212	97
経常利益		△ 1,151	△ 778
	棚卸資産評価損	-	△ 1,358
	その他	-	1
特別損益計		-	△ 1,357
税引前利益		△ 1,151	△ 2,135

棚卸資産残高推移(連結)



(注1) 回転率 = 四半期売上高 × 4 / 四半期単位平均棚卸資産 (注2) 値はそれぞれの欄で四捨五入

キャッシュフロー概要(連結)



第1四半期

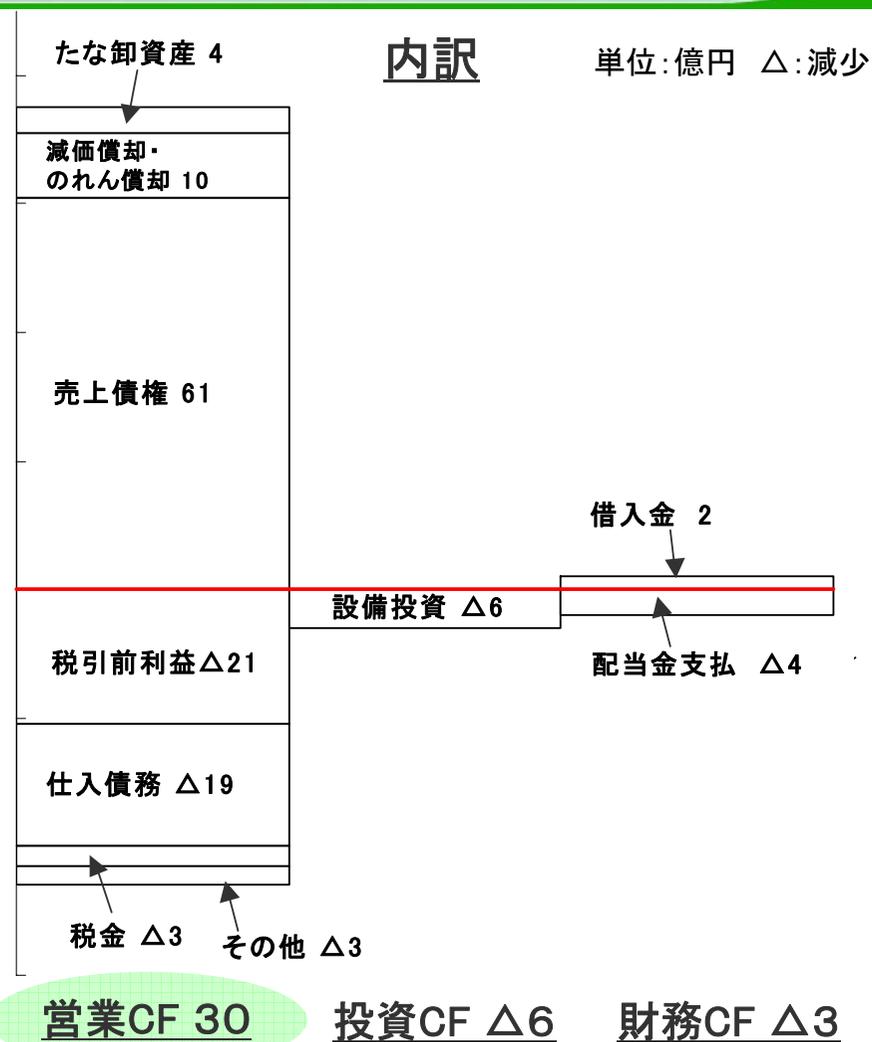
- ①営業CF: 30億円
- ②投資CF: △6億円
- ③財務CF: △3億円

フリーキャッシュフロー

(①+②): 24億円

現金同等物期末残高

191億円



(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

2009年3月期第2四半期(累計)、通期の見通し(連結)

単位:億円

		第2四半期連結累計期間		通期	
		FY2007実績	FY2008予想	FY2007実績	FY2008予想
売上高		488	475	1,005	1,000
営業利益		13	△ 6	54	45
経常利益		△ 3	△ 10	△ 20	37
当期純利益		△ 2	△ 30	△ 39	10
計測器	売上高	361	340	727	715
	営業利益	10	△ 8	41	30
情報通信	売上高	22	15	57	60
	営業利益	△ 3	△ 5	1	1
産業機械	売上高	68	75	136	145
	営業利益	5	4	8	10
その他	売上高	37	45	84	80
	営業利益	1	3	3	4

配当: 1株当たり年間7円(うち中間配当3.5円)を予定

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

(参考) 想定為替レート: 1米ドル=105円

今後の取り組み



NGN及びインフラ関連分野

対象市場状況

通信ネットワークのブロード
バンド化の投資は継続

バックボーンの超高速化
(40Gbit/s、100Gbit/s・・・)

有線・無線アクセス
ネットワークの拡充続く

取り組み

1. 超高速ネットワーク機器の
開発から製造、建設・保守用まで
計測ソリューションの拡充、提供
2. 製品の価格競争力の強化
3. 基地局建設・保守用ハンドヘルド
計測器のトップポジション堅持

携帯端末分野

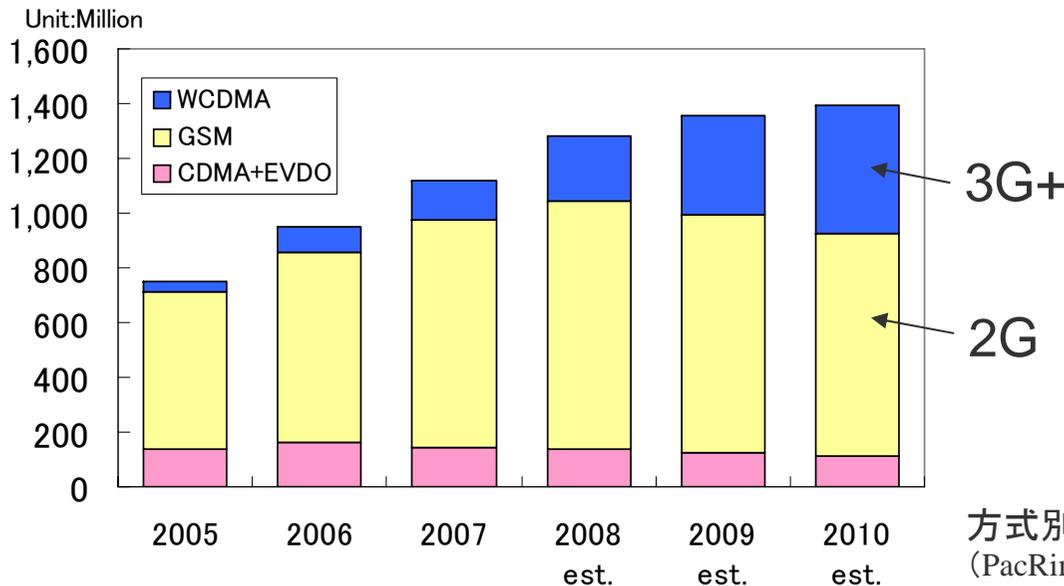
対象市場状況

ブロードバンドサービス対応の新方式への移行が通信事業者の収益にとって必要

3G/3.5G、HSPA+ ⇨ LTE (3.9G)

取り組み

1. 3G/3.5G製造用計測器の継続的需要拡大をとらえる
2. LTE開発用計測ソリューションをタイムリーに提供





汎用分野

対象市場状況

通信技術や高速デジタル技術の応用による無線関連部品、電子部品、地上デジタル放送、カーエレクトロニクス、情報機器などの拡大

取り組み

1. WiMAX、LTEなどのワイヤレス・ブロードバンド関連部品テストソリューションの強化
2. 汎用ハンドヘルド製品の
新市場開拓
3. デジタル放送向けアプリケーションの提供
4. 高速デジタルバス用テストソリューションの充実

海外ビジネスの拡大

- ASEANを中心に水産物多段階計量システムの拡販
タイに現地生産の工場を開設、流通経路の短縮と顧客サポートの充実
- 欧米での売上拡大
世界的に食の安全と品質を確保するため、X線異物検出機、重量選別機の需要が拡大



アンリツ産機システムのタイ新工場

Anritsu

Discover What's Possible™